

# 随筆

## 鼻くそ丸めて萬金丹

飯田 良樹 (久居一志地区)

皆さんは、題にした唄を歌った事がありますか？  
萬金丹は薬の形状（小さな丸い薬丸）から、「越中富山の反魂丹、鼻くそ丸めて萬金丹」と童唄で親しまれていました。

（地元では「越中富山の反魂丹、薬草まるめて萬金丹」と唄われていますが）



米野白水 萬金丹製造の絵葉書 (滑稽新聞社発行)

萬金丹は、伊勢参拝した人達によって伊勢の土産物として伊勢白粉とともに全国に広まり、多くの類似薬が作られ、20種類以上もが出回りました。

萬金丹を系統にみると

1. 朝熊山系(本尊 虚空蔵の霊夢より伝授)
  - (1) 野間萬金丹
  - (2) 護摩堂明王院萬金丹
2. 朝熊村系 (秋田教方中倉萬金丹、のち2家に譲渡された)
  - (1) 中倉義延(6代)より岩城梅寿軒東庵(桜木町)
  - (2) 中倉忠悦(7代)より神田家(吹上町)
3. 小西家系: (堺の小西家の秘方を譲り受けた)
4. その他
  - (1) 伊勢之國 萬金丹
  - (2) 伊勢以外の大和、近江、富山の萬金丹

### 野間萬金丹

靈方萬金丹として知られた野間萬金丹は、古文書等によると、祖・野間宗祐が室町時代の応永に、仏地禪師に随行して故郷の尾張國野間から朝熊岳の金剛證寺に移住して、その信仰の中で秘方を授けられ、創薬した薬が萬金丹といわれています。金剛證寺は伊勢神宮の鬼門を護る寺であり、「お伊勢に参らば朝熊をかけよ、朝熊かけねば片参り」と伊勢音頭に歌われ、金剛證寺のお参りをを終えた参詣の人達が買い求めたといわれています。



朝熊岳野間萬金丹本店



尾上町支店



商票入り薬袋 各種

### 岩城萬金丹 (秋田教方萬金丹)

この処方常陸宍戸藩の城主であった秋田実季(秋田城之介)によると伝えられている。彼(実季)はお家騒動の罪により伊勢國の朝熊山麓に蟄居になった。たまたま同地に住んでいた中倉義之と懇意になり、彼(実季)は自分の持っている秘薬(萬金丹)の処方が失われないように、これを義之に伝授した。これが中倉家の秘伝として製薬され、7代忠悦の代には医業も修め、京都に出て

「伊勢大掾(だいじょう)」の名を貰った。尚、秋田教方萬金丹には2つの系統があり、一つは本店を中倉家に、支店を中之町に置いたが、寛永17年(1640)に中倉家が絶えたので、岩城家が本店を継いだという説と、もう一つは中倉義延から出たと言う説がある。古市桜木町には岩城萬金丹=岩城梅寿軒がある。



秋田教方萬金丹本舗(『三重県薬業史』) 薬袋



金看板と摺られた札(古市参宮街道資料館)

### 小西萬金丹

小西萬金丹本舗は、伊勢国司・北畠教郷の家臣日置越後守清久に始まります。主家滅亡後、清久は医道に志し、堺の小西家の秘方を譲り受け、小西姓と改め、延宝4年(1676)現在地に創業。以来16代にわたって営業してきた。最盛期には四日市、京都、江戸、近江、草津、伊賀に出店し、享保年間には宮家より大和大掾の名を賜り、明治維新まで8代の間、小西大和大掾と称してきた。(同店前の説明文を要約して写す) 家伝の小児丸薬「治効圓」は萬金丹より売れたらしい。



小西萬金丹 赤福伊勢だより(徳力富吉郎)



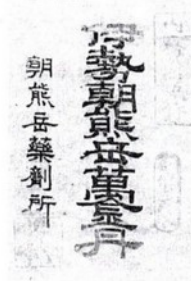
店内展示の金看板



商票入り薬箱

(小西さんの御好意で昔の薬箱を探していただきました)

### その他の萬金丹



伊勢朝熊岳萬金丹(?)



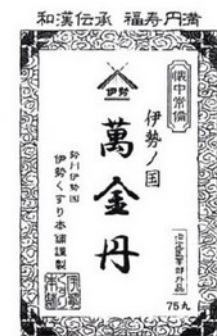
伊勢国朝熊岳本家萬金丹



伊勢朝熊萬金丹(近江)



朝熊萬金丹(山形)



伊勢ノ国 萬金丹(伊勢)

## 各種萬金丹の成分



## 小西萬金丹 (2500粒中) 一日量15粒に換算

阿仙薬	188.0瓦	アセンヤク	1128mg
肉桂	13.0	ニッケイ	78mg
丁子	9.0	チョウジ	54mg
青皮	6.0	セイヒ	36mg
麝香	0.4	ジャコウ	2.4mg
龍腦	1.5	リュウノウ	9mg
甘草	23.0	カンゾウ	138mg
木香	13.0	モッコウ	78mg
氷餅	28.0		
銀箔	2枚		

## 野間萬金丹 (57粒中) 一日量5.7g

日局アセンヤク末	1.0g
日局カンゾウ末	1.5g
日局ケイヒ末	1.0g
日局チョウジ末	0.5g
モッコウ末	1.0g
結合カンバイコ	0.7g
丸衣銀箔	微量

## 伊勢の国萬金丹 一日量 (15丸) 中

アセンヤク末	1000mg
ケイヒ末	100mg
チョウジ末	100mg
モッコウ末	100mg
センブリ末	50mg
ℓ-メントール	10mg

添加物として、カンゾウ末、米粉、金箔を含有する。

## 薬草と薬効

阿仙薬 (アセンヤク) ウンカリの葉

腸収斂剤、解熱、口内清涼薬

肉桂 (ニッケイ) ケイの樹皮

芳香健胃、矯味薬

丁子 (チョウジ) チョウジの花蕾

芳香性健胃、興奮薬、香料

青皮 (セイヒ) ポンカンの未成熟果皮

腎血流抑制、胃腸運動抑制

麝香 (ジャコウ) ジャコウシカの腺分泌

興奮、強心、鎮痙、鎮静薬

龍腦 (リュウノウ) リュウノウジュの結晶

消炎、鎮痛薬、香料

甘草 (カンゾウ) カンゾウの根

消炎、解毒、緩和、矯味薬

木香 (モッコウ) モッコウの根

健胃、整腸薬、薫香

## 終わりに

萬金丹は江戸時代より旅人に胃腸薬として親しまれてきましたが、明治元年の看板に菊花紋章禁止、明治3年に売薬取締規制で勅許・御免・家伝秘法など禁止して審査に合格すると官許、明治17年には商標条例で登録商標表示など規制が厳しくなり、また西洋薬の登場でだんだんと廃れてしまい現在では伊勢の国萬金丹のみとなってしまいました。

中医学が見直されている現在、残念な事です。

萬金丹について、もっと知りたい方は久居一志地区医師会 会報誌『雲出川』第30号「伊勢の薬萬金丹」とホームページの「伊勢探訪記」(秋田耕司氏)を見てください。

